

## 4 明・清の社会・経済について考える

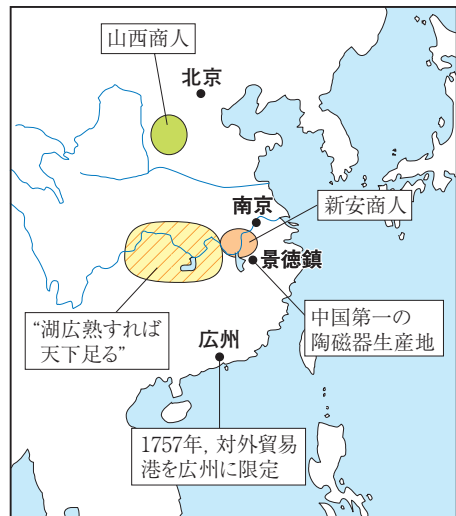
### 📍のつけどころ

#### 明代後期以降の産業・貿易の発展と、社会に与えた影響に注目！

16世紀以降は世界的に商業が活発化し、明代後期から中国国内の経済が大きく発展していった。清朝の支配が安定し、海禁の解除によって海上貿易が再び盛んとなると、さらなる経済発展と人口の増加が見られるようになる。海外から流入する大量の銀は、税制にも大きな影響を与えた。明・清代の経済発展について、重要事項を整理しよう。

#### 明・清の社会・経済

農業	米の主産地が湖広に移動 綿花・桑・茶などの商品作物の栽培
手工業	綿織物業、製糸・絹織物業が発展 景德鎮などで陶磁器を生産
商業	山西商人・新安商人ら特権商人が活躍 会馆・公所を活動拠点とする
貿易	明代：海禁、朝貢貿易の推進 →倭寇の活動を受けて緩和 清代：台湾平定後に海禁を解除 →ヨーロッパ船の来航は広州1港に限定
税制	明代：メキシコ銀・日本銀の大量流入 →両税法から一条鞭法へ転換 清代：人口の増加、税制の簡略化の必要 →一条鞭法から地丁銀制へ転換



#### ☑️チェック

- ☑️ 明代後期には生糸や景德鎮で生産される①\_\_\_\_\_などが国際商品となって輸出され、対価として大量の②\_\_\_\_\_が中国に流入した。綿花や桑などの栽培や綿織物・絹織物の家内制手工業も発達し、明末には長江中流域の③\_\_\_\_\_が新たな穀倉地帯となった。
- ☑️ 商工業の発展に伴って貨幣経済が浸透し、②\_\_\_\_\_が広く流通するようになると、16世紀には唐代以来の④\_\_\_\_\_に代わって、地税（土地税）や丁税（人头税）など諸税を一括して②\_\_\_\_\_で納める⑤\_\_\_\_\_が導入され、税制が簡略化された。
- ☑️ 明代後期の経済発展は清代にも引き継がれた。台湾平定後に海禁を解除すると海上貿易が再び盛んとなり、生糸・①\_\_\_\_\_・茶などが中国から輸出され、多くの②\_\_\_\_\_が中国に流入した。18世紀半ばには⑥\_\_\_\_\_帝がヨーロッパ船の来航を⑦\_\_\_\_\_1港に限定し、特許商人組合である⑧\_\_\_\_\_に貿易を管理させた。
- ☑️ 税制面では、人口の増加からさらなる税制の簡略化がはかられ、18世紀前半に丁税を地税に繰り込んで納税する⑨\_\_\_\_\_制が導入された。
- ☑️ 政治的安定などを背景に18世紀の中国では人口が急増した。各地への移住と開拓が進み、福建や広東など沿岸部の住民には東南アジアで商業活動を行う者も現れた。⑩\_\_\_\_\_大陸原産のトウモロコシやサツマイモなど、山間部でも耕作可能な輸入作物が人口増加を支えた。

#### 空欄の解答

- ① 陶磁器    ② 銀    ③ 湖広    ④ 両税法    ⑤ 一条鞭法  
⑥ 乾隆    ⑦ 広州    ⑧ 公行    ⑨ 地丁銀    ⑩ アメリカ

## 5 ムガル帝国の統治体制について考える

### 📍のつけどころ

#### アクバルとアウラングゼーブの政策の違いに注目！

16世紀に成立したムガル帝国の時代には、ヒンドゥー教徒が多くを占めるインド亜大陸のほぼ全域をイスラーム王朝が支配することとなった。第3代皇帝アクバルの下で帝国の支配は安定し、イスラーム文化とインドの伝統文化の融合が進んでいく。帝国最大の領土を実現した第6代皇帝アウラングゼーブの政策と比較しながら、ムガル帝国の統治体制を理解しよう。

### ムガル帝国の統治政策と支配領域

#### ▼ムガル帝国の統治政策

アクバル (位 1556 ~ 1605)	アウラングゼーブ (位 1658 ~ 1707)
<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヒンドゥー教徒との融和 →官僚や高級軍人に登用 →ジズヤ廃止</li> <li>●中央集権体制の確立 →マンサブダール制 →検地・徴税制度改革</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●非イスラーム教徒を弾圧 →ヒンドゥー寺院の破壊 →ジズヤ復活</li> <li>●帝国の領土は最大となるが、各地で反乱が頻発</li> </ul>

#### ▼ムガル帝国の支配領域



#### ☑️チェック

- ☑️ ムガル帝国の第3代皇帝アクバルは、① \_\_\_\_\_ に都を置き、北インドからアフガニスタンにかけての広大な領域を支配し、中央集権体制を確立した。② \_\_\_\_\_ 制の下で、官僚は官位に応じて維持すべき騎兵・騎馬の数が定められ、その数に応じて、土地からの徴税権という形で俸給が支払われた。
- ☑️ アクバルはヒンドゥー教の有力者である③ \_\_\_\_\_ を高級官僚などに登用したほか、④ \_\_\_\_\_ を廃止するなど、ヒンドゥー教徒に対する融和政策を行った。こうした中で、ヒンドゥー教とイスラーム教の要素が融合したインド=イスラーム文化が発達した。
- ☑️ 16世紀頃から世界的に商業が活発化し、インド洋交易の中心であるインド西海岸を中心に諸都市が繁栄した。16世紀にはポルトガルが⑤ \_\_\_\_\_ を占領し、17世紀にはイギリスやフランスも来航して、多くの銀をもたらしたことから、インドに貨幣経済が拡大していった。
- ☑️ 第6代皇帝アウラングゼーブは、厳格なスンナ派教徒としての立場からシーア派や非イスラーム教徒を弾圧し、④ \_\_\_\_\_ の復活や寺院の破壊などの圧迫を加えた。帝国の領土は最大となったものの、パンジャブ地方の⑥ \_\_\_\_\_ 教徒やデカン高原の⑦ \_\_\_\_\_ 王国、西インドの③ \_\_\_\_\_ などが各地で反乱を起こした。遠征によって帝国の財政は圧迫され、アウラングゼーブの死後、帝国はまもなく解体に向かった。
- ⚠️ 以後、ムガル帝国に抵抗する勢力に対し、イギリスが干渉を行って徐々に植民地化を進めていくことも視野に入れておこう。

#### 空欄の解答

- ① アグラ ② マンサブダール ③ ラージプート ④ ジズヤ  
⑤ ゴア ⑥ シク ⑦ マラター